

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue





小太夫上

まのぶのうらあひあううもさつども。さうらたあぶい
うへく。まの場をとりつくりひらるうり。庄を流る鬼の
ふたあも。相慕ふの情のかりなき。あひひあひひを
いそめらるうらあひあううありん一日まのぶが神を
まをえつけひらふ。不渡り申んとは。杉木大あがら
あひ何と名あふとひたあんとあひを。撞と踏さす。
まのぶあくと用もあは。踏人をとりはく。何れせん。似つる
しれ。神を百年もあひべいとあぶ。い。泣居る信
夫とひらる。逃去んとまら。あうしも。側の新亭あ

戀ひ居る大男。つこらうく。庄を流る。あをりたあふし。
まのぶをうらあひあううと。呼とひらうく。起あがらふ。
つふ息のあふのま。まのぶさう。木あせうく。彼人
とまら。不頭あるげ。中をうり。足不。榊臺の木。履
取つ。膝あ。尺八を斜あさ。うらうの男らちひ
小女。あふとまら。い。と。難波堂。あふ。黒船。あふ
といふ者。小女。う。禮。飾の。紗。う。ら。不。榊。あ。一。の。字。の
字。へ。秋。田。宗。景。の。家。臣。入。江。米。津。ひ。の。致。所。う。

八十八

七

妻もさう小女が母の横裏とつひ切とるびめふし笑
 い侍女梅亦女ふらんとりあふ兩人うちかどつたおれ
 ぐさるまのうどしづらざるを不審とらふ。只あつてふ
 のこまり。彼男又いふ。その仔細は君さうのまぢやあな
 事なれば。さうくもせんまゝ。只核を鉄子こらわ我
 解ふうくもさうざつちのやんと。此年月は行儀を
 づづひまのやん。ふ此武蔵國ふくれは。はなはたさ
 ちるぐらざりしりひありと。逢ふらさるらりて。さ
 よ此所は街上るれば。事を残さるふらりしから。君

さらのくれ家の茶亭の老婆ふ少おれくれの
 訪ひまのやん。庄多橋とやんが。つらざるさいふ
 ちやさうくつりねとまむれ。二人の縁故は。さ
 されど。うくもらとびかりひ。われをつげく家ス
 り。まらぐのり。母様。お物語と。つひあつて
 といふ。あななど。忠ちんとやん。ふ途へ。縁由は。さ
 と答られ。二へも。彼が。言ふ。の。あり。れ。と。う。り。と。

泣えん竟らんぞ死せる人のぞく。さういふあはれなう
らる。あらしも夕立あわのさこそうりうり。雷さんいひ
鳴りれば彦多清様本が古殿不勝うらわの。さういふ
ちうらくあそまのぶを傍にやん。急ぐぬるも夏衣
と早歩とらういひ。さういふも涼風のいひもを
賞しらる。

三 霊鬼夢不危急を生ける

説話兩頭。さうも小やんの去年の冬。信夫がりとの
あそびやえとらういひ。果園が目ふうやくらう果園

大ふ怒り一室ふちうこ。あはれ殊小此頃ハ仏戒もあはれ
まぶく小やんと口説たれど。小やんさう小兼訂されを。
あはれも果園の出氣やまび。人の花とらうあそびんも口
惜と彼一室あは格子とらうつけ。三度の飲も同らう
さういふ。見く人小見うさそをゆるさび。小やんあはれが
あやまりあり。夢をさういふ。友とくハ涙もぬるく
つらあく。日影三人えぬ。朝負の香とらうえん。あはれ
誇ふ信夫がさういふ。それいふれやまび。さういふ鳥の雲とらう
あはれいん。さういふ小月日とらういひ。あはれいん。さういふ

一室のうらふ経とひうつくありけり。あやふらふ
陽冬うげふいのむね女おんな忽然おとろろそくそくありけり。色いろ側わきみ未いまもをえれ
ば橋はし末すえあやありけり。うらう不ふ涙なみだの魚ういをあげ金かね主しゅ君きみ
の勢いきのうへふ一大いちだい事じこそ出いあわたり。まゆく未いまりく君きみ
からうらうとそそる人ひと。りよ此この世よの人ひとみあふむとらふと
おの人ひとがまろく浮うる雨あめの音ね小こ極ごく然ぜんそくそく夢ゆめさあねと
ハ奇怪きがいこと側わきとんじふ鮮あざ血ちみそをりく又またあり。
いよくあ中ちゆう一いちくうゆくまねまのぶ君きみのうらね衆しゆいこと
うり西せい十じゅう余よ町まちありと聲こゑ。どねえさるるとらふもあ

いこ。ひあつく彼かの刀やいばをそり。壁かべを穿うちくおのくの方かたみま
びあどど。夕ゆふづらありの立た日ひふよぎれ。まはる人もあ
ぶねがゆらうらうとび。卒そとが壁かべの垣かきをひつげくおどり
あえんとまろかりしも。帯おびをそりく引ひ房ふさは者ものあり振ふ
うりたるふあは則すなは果は糸いとへ小こちんおおどろねありま
えんとる糸いとと果は糸いと声こゑありや。や小こちんりよはは
う色いろ香かみちうひ教しやくの金かね小こ贖あがらひく。一夜いちやのそひぎりら
ぬのそく。此この愛こゝろたまのびあふ私わが夫おつとみ実まことをそく。あけ
走はことおぼとらうと。うりそぞとらうとらふもあ



山崎

五



山崎

六

小中入おどろく胸を定め。此と此雨も小止れば。彼の
あやとまわり。かあらかしくををみる。のこりふとく君
ふとくぐくの懸ありく。けらふ一点の報あり。夢めん
るりこちりと

しらそふまのまふみと君まふふとめト
の句をつけめらぐ。まつらをわらしまのうまん。いふく
と阿つむる。果系や時頭をくれ案じつづらふめん
とんままよ。カうちりり己がかりそをさりそらんを
カ尖あかりく果系が肩ぬさりまらり。まわりおふ

撞と倒とるがら。主ふをひふ賊婦めとあらんときを
小中入今いせんころく。南無阿弥陀佛と唱名して。又
一刀さうつら。時ふ不思美や一團の陰火西のうん
とひされば。さうら移末が止雲の導ねるうと。おそ
ろくまがらおめく。のうふ走り出れば。又雨さ人降し出
雷声の頭の上お落るをうりたれど。まのぶが月のむ
りころさふ思ひくひくぬらぬら。石の地蔵のまぢせ
くを電光のうげふんま。あねとまらしく向ふうら
雨とさへらり陰火をめあつくふ走りゆく。これらさく

ぐん 獄門の庄去跡へ。まのぶとかけ植のそおふまがり。ゆ
まのこれるをすりふ程なく雲より月のごやみはじ
みられバ踏く衣とわらうさんと下二人お命だ。雑器
とのつち度上お火とさうや。さう本を切殺さうか
とえふお鞘のそありく白刃さう。さうさうか入と
ゆとさうつけば。やうく下の子とさうさうさうさうさう
おさうつけ。ゆまのぶ致着けがゆおまごぶじんバ世
積雪もさうさう木のさう切さうんが返答ありやと
られまのぶ声さうさうさうさうさうさうさうさうさう

母人さぶゆさうさうさうとさうさうさうさうさうさうさうさうさう
刀とやうまのぶが胸りとおさうつけ。いふお老むれあ
うさあおめく信夫がむたさうさうさうさうさうさうさう
くバ娘おさうさうといひ少せ。けが書お媒あせとさうさ
まの正体さう殺さういふを殺さうさうさうといひさ
庄去跡が白刃と両さうお握く。いふ物りさうさうさ
まのぶの恰も狂気のさうさう母上さうおゆえのさう
害と。まんとさうさうと縄あさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

上巻

廿七



おつらうが、死なせりへ。貧苦も迫る。とうろく。と。種もあは
 ちいさなまき。いふ。あはね。いふ。ま。う。い。め。の。こ。し。
 め。の。二。人。こ。ろ。づ。く。も。う。こ。た。た。め。あ。ら。と。さ。ん。ん。と。あ。も。
 は。ひ。く。涙。を。や。ら。う。の。伽。と。あ。い。い。ふ。は。あ。く。ま。の。ぶ。が。
 孝。も。ま。の。身。の。こ。ろ。あ。の。仇。と。あ。り。様。木。が。撲。死。と。い。ひ。い。さ。
 女。は。あ。ら。び。を。ご。め。さ。し。お。も。い。た。ま。さ。う。い。ひ。ご。と。彼。に。
 い。鬼。く。さ。い。あ。も。い。う。つ。が。自。害。と。い。び。ん。と。あ。り。や。智。
 なる。彼。を。い。ま。ひ。い。へ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。

撞。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。
 も。ま。の。親。し。く。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。
 へ。男。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。
 あり。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。
 ん。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。
 ん。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。
 と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。と。い。ひ。い。さ。
 小。や。ん。一。人。の。忠。た。ま。い。ふ。小。や。ん。を。中。極。さ。れ。ふ。り。あ。り。
 彼。男。を。と。り。小。獄。門。の。序。も。あ。り。は。バ。塔。奴。ら。ぬ。と。い。ひ。

十
 七

みく出あひとらと極下へあがりかとう。刀とあつて
あつてが縄ををまわりわづら刀尖あやううさかり極のまねを
加罰られ水あつて店の面水海出の焚捨一毎もお消文あつて
暗をさうらう。小やんの忠告を店を清くともりのい忠告の
小やんと賊とあひい商人声とろり刀を下とら合
を。あつてもさうと改まる風ふつと。さねと燃あがりし
火うげふるねんかひなりれば互みかどらね小やんの
刀をひきく。度ふれ下り。被両賊をさうふ一人の仁王
の依ちあ一人の下路の市へ。さや店を清く暗水棄れ

みげ失れね。あひのけんとあつてどつぐらの路へあげ去
しやそれとん思あつて。信夫が氣とさうらうあひ
をさうと忠告のいんとも抱起しくあやうな。薬を
あつて水とあつてふ酒さうとさうふあありと息あ
あつてさうらうふ一五一十とりのぐれば。小やんの又極本
う夢小危急と告るをさうと血刃の側みありしや
さうともさう清り生三人ひさうと歎が。若ふがりのあつ
忠告の火とろりぐ仔細ふるね。彼賊のとおぼしき
鼻帯袋あり。ひさたえね。小山の丸脚う。店を清く

わんかろりし書簡あり。忠ちつまのぶが側みはら。さ
まぐれたまひなれど。うりやうねとるわぶ。そのうら
度も病を言く。孫木どのふ手向のふまうじうれが
かまを。信紙包ふ小中まの九助といふ者の書簡
あり。その文伴小庄も病を難波へ招く。うんをさし
此九助といふ者。いらうぢう関東より。せうくいせ
つか住堂あり。米と荷ふとるうらひとるひ者なり。
度も病も。く。罪ちとんと書く。は。也。國のま。ひもなし
ごと。難波へ来ん。い。必定なり。先。め。も。せ。え。け。い。ど。い。け
い。

ふくくも世姑。一。中。の。う。せん。が。我。仕。難。波。へ。来。り。く。ま。え。と
世。ふ。の。の。り。う。せ。や。れ。が。信。夫。小。中。ま。の。い。ら。う。う。で。い。あ。あ。け
え。の。ら。あ。り。く。野。辺。か。ろ。り。と。あ。い。と。う。く。ま。の。の。の。の。我。外。の
男子。た。ら。き。う。り。小。中。ま。の。う。と。も。洋。ふ。う。ん。の。や。世。と。信
る。こ。も。あ。る。や。う。と。前。髪。を。さ。り。つ。く。五。郎。八。と。名。を
の。の。の。の。小。中。ま。の。も。誘。い。ん。と。い。ひ。ら。れ。が。忠。ち。ら。も。然
る。べ。し。と。美。川。小。中。ま。の。又。小。中。ま。の。九。助。が。堂。治。ふ。ま。を
め。の。夢。あり。と。い。ふ。あ。ら。ぬ。と。く。雨。の。の。の。の。も。知。る。う。や。と
知。ふ。信。び。七。日。の。信。度。も。と。と。の。の。の。難。波。を。さ。う。く。旅

二巻

三十一

がらあつが忠ちらつ不斗小主人小ひつひ。着和女乃母
らの名は唐衣といひいひのふし中と聞ひりねば。小主人のふ
かごうにうかう。母が悪むと知らる人あやとそらあひ
く。つらなるをちらのくろせねあつ。唐衣とゆうん人乃
女児あつあついと答へり。此時五つ八の草鞋の紐を
ひらく入。ちるう踏ふひねさうりねば。その物さうりあ知
らざりりり。

後編奴の小主人六の巻 終

余本鉄

